

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年1月31日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891900037		
法人名	株式会社 一陽		
事業所名	フレンズ牛久遠山	ユニット名	A棟
所在地	〒300-1215 茨城県牛久市遠山479-1		
自己評価作成日	平成25年8月30日	評価結果 市町村受理日	平成26年1月28日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0891900037-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年10月10日	評価機関 決 済 日	平成26年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

☆敷地内に畑があり利用者様と季節の野菜を作りそれを収穫し召し上がっていただいています。
☆地域の行事に参加したりフレンズの行事・イベントにも参加してもらおう等地域との関わりを大切にしています。
☆入居者一人一人にあった個別のサービスを行っています。
☆一緒に洗濯物を干したり、洗濯物をたたんだりと家事の出来る事を役割に持って頂き満足感を得る様に援助しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は幹線道路から車で2分程脇に入った場所に立地しており、周囲には竹林や畑が広がり、住宅が点在する閑静な環境となっている。
管理者は事業所自体が地域の一員として、日頃から利用者と職員で地域の清掃活動や祭りなどの行事に参加するなど、地域と強い絆が築けるよう努力をしている。
事業所主催の行事に地域住民の参加を得ており、企画を提案してもらったり、準備を手伝ってもらったりなど、協力体制を築いている。
管理者は、「職員と何でも言い合える関係づくり」や「利用者を職員のチームワークで支援する教育」に力を注いでおり、職員の提案や意見は早めに対応して利用者一人ひとりの変化に応じた支援につなげている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関先に施設の理念を掲げ職員は出勤時に再確認できるようにしている。カンファレンス時理念にそった援助である事の確認をしています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、職員の出勤時に確認ができるよう玄関に掲示している。 管理者と職員は月1回のカンファレンスやスタッフ会議時に理念を確認しながら共有し、実践に結び付けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自次会に加入し地域のゴミ拾い運動会夏祭り、ラジオ体操等の行事に参加している。年一度地域の人達とバザー（日用品）模擬店（焼きそば、ソーセイジ）等えお企画し交流しています。又オカリナ、民謡、傾聴等のボランティアも定期的に訪問してくれている。	利用者は職員と一緒に地域の清掃活動や夏祭り、子どもの夏休み期間に行われるラジオ体操、市主催の「かっぱ祭り」に参加し、地域住民と交流している。 毎月オカリナや民謡、傾聴ボランティアを受け入れ、利用者が地域とつながりながら暮らせるよう支援している。 利用者や家族等、地域住民の交流を目的に毎年10月に開催している事業所の交流会では、地域の人々が焼きそばなどの模擬店を出店し、準備から調理まで率先して行ってくれているほか、同日に行う「バザー」の品物を利用者の家族等や地域住民が提供してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知所に関するパンフレットを用意し、訪問してくれた家族、友人に配布し認知症の人の理解が出来る様配慮している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催している運営推進会議で市社協職員、民生員、区長、家族代表等に参加してもらいお互いに意見交換し地域の現状や家族の希望、施設の入居者の状況等報告をしあっている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、区長、民生委員、地域住民の代表、管理者、職員で2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の生活の様子や運営状況の報告を行うとともに課題などを話し合い、委員から出た意見や助言をサービスの質の向上に活かしている。 区長や地域住民の代表から、「事業所の交流会に今までは焼きそばを提供していたが、今年は焼き鳥や綿菓子などを取り入れ、秋祭りを兼ねた賑やかな交流会にしてみてもどうか」との提案があり、地域住民の協力を得ながら準備を進めている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者には事業者の状態を常に報告し相談にのってもらっている。月に1回市から介護相談員が訪問してくれて利用者の希望等聞いて施設職員に知らせて頂き対応の改善をはかっている。	管理者は要介護更新認定の申請などで毎月市担当者を訪問し、事業所の運営状況や空き情報を報告して協力関係を築くように取り組んでいる。 生活保護受給の利用者から事業所を退去したいとの相談を受け、市担当者に相談して解決に結びつけるなど、日頃から協力が得られる体制を築いている。 月1回市から介護相談員2名を派遣してもらい、利用者の要望や苦情の汲みあげに役立てている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や行動制限を行わない事を制約書に明記し職員の身体拘束に関する研修も行っています。施設の玄関等施錠をせず自由に出入り可能にしてあり、事故が起きない様に職員が常に見守りを行っている。	身体拘束や行動制限を行わないことを契約書に明記し、利用者や家族等に説明している。 全職員が身体拘束の内容とその弊害を理解するとともに、月1回のカンファレンス時に身体拘束の状態になっていないか確認したり、身体拘束の内容と弊害について例を挙げながら勉強会を実施したりして、身体拘束をしないケアに努めている。 玄関は施錠せず、利用者が自由に出入りができるように支援するとともに、出入りするとチャイムが鳴るセンサーを取り付け、防犯にも努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回行なうカンファレンスに於いて虐待の研修も行い実際行っている介護が適切なものであるか常に検討している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に認知症の方の施設である事を認識し権利擁護や成年後見制度の研修に参加し家族にアドバイスが出来るようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を詳しく説明し理解してもらっている。又分からない点はいつでも対応できるような体制を整えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常より入居者の意見は充分聞き実現できる物は取り入れるように協力している。又家族の意見も意見箱等を利用したり電話、手紙等で伺う機会を作っている。	管理者や職員は利用者との日々の会話から意見や要望を聴いているほか、家族等からは来訪時や電話連絡時に意見や要望を聴くよう努めている。 利用者から食事にパンを取り入れて欲しいとの要望があり、月2回パンを提供するようにしている。 家族等へアンケートを実施したところ、「事業所には談話室が無いため、来訪時に落ち着いて話せる部屋が欲しい」との要望を受け、管理者は代表者に伝え、実現に向けて取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで意見を言ったり日頃から話し合える環境を作っている。又職員の業務の改善も遠慮なく言えるような環境作りをしている。	管理者は月1回のスタッフ会議時に職員から意見や提案を聞くとともに、休憩時にコミュニケーションを図り、日頃から何でも言い合える関係づくりに努めている。 職員から「利用者の高齢化に伴う体調面の不安から、利用者全員で外食するのは難しいので、利用者が好きな生寿司を出前で取り、海鮮寿司パーティーを開催したい」との提案を受けて実施するなど、職員の意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の相談によくのり、生きがいを持って働けるよう職場環境作りを行っている。代表者、管理者、職員間のコミュニケーションがとれるように親睦会を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加してもらいたい。職員自身の介護能力を高めると共に施設全体のレベルアップを計り入居者の介護に役立てたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	各種連絡協議会等に参加し同業者同士の交流を計っている。他の施設を訪問する事により自分の施設のサービスの質を考える機会を作っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いを十分に聞き不安が少なくなるように早く信頼関係が築けるように協力する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今まで介護してきた家族の立場の不安を出来るだけ多くとり除き全体像として一番よい方法をとらえていく		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在何が一番重要か優先順位を決め早急に実行していく。必要に応じて他のサービスを併用していく。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する家族として行動を共にし信頼関係を築くようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に本人を支える一員となり支援している。又家族のきずなが保たれるように気を配っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきた人々との関係や馴染みの場所を共に大切にすることにより本人との関係が途切れない様に援助していく。	職員は家族等から話を聞いたり、利用者との日々の会話から、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するように努めている。 利用者の友人や親戚が来訪した際には、居心地よく過ごせるようお茶を出すなどの支援をしている。 職員は馴染みのスーパーでの買い物を支援したり、利用者と一緒に以前暮らしていた自宅の前を車で通るなどして、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に外出に出かけたりドライブや花見等でお互いに利用者同士が関わる機会を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族に月1回発行するフレンズ新聞で近況を報告したり又時には施設を訪問していただいて相談等にのっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃より本人との会話を密にし本人の思いや希望を聴いている。又把握困難な人の場合はご家族から情報を得たりカンファレンス、モニタリング等で検討している。	管理者や職員は入居時のアセスメントから利用者の生活歴を把握しているほか、日々の係わりの中で会話や行動を観察しながら利用者の思いや意向の把握に努めている。 意思疎通が困難な利用者の場合は表情やしぐさから判断したり、家族等から情報を得ているほか、職員で話し合っって利用者の思いを汲み取るよう努めている。 把握した内容は個人ファイルと職員連絡帳に記載し、全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式シートにより本人、家族より情報収集し今まで利用してきた施設等の情報提供等なるべく正確に詳しく経過が分かるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方の記録等により身体状態を把握し変化を見逃さない様になっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回全体のカンファレンスを行っているが変化がある場合はその都度担当で話し合いをあいている。なるべく関係者の多くの意見が反映した介護計画書を作成するようにしている。	介護計画は月1回カンファレンスを実施し、利用者や家族等の意見や要望のほか、医師や職員の意見等を取り入れて作成するとともに、2ヶ月に1回モニタリングを実施して見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直し、利用者や家族等の確認を得ている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個々に具体的な記録に残し身体状況の変化に気をつけると共に職員間で情報を共有し介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の利用者のニーズに対して、買い物、通院、散歩介助等個別のメニューで支援している。画一的なサービスではなく、その人に応じた細やかな支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	オカリナや民謡のボランティアとの交流、家族の訪問、民生員や区長地域の人々との交流を通じて楽しい変化のある生活が送れるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院により月二回の医師の往診を行っている。他に訪問歯科、皮膚科の往診を行っている又本人の希望により医療機関への通院介助等も行っている。結果は記録に残し情報は職員間嘉ザ区で共有している。	契約時に利用者や家族等の意向を確認し、希望するかかりつけ医への受診を支援するとともに、協力医療機関への受診も支援している。 かかりつけ医への受診は家族等の付添いを基本としており、受診時には職員が利用者の体調などを書いたメモを家族等から医師に渡してもらっている。 月2回協力医療機関の医師による訪問診療や月1回皮膚科の訪問診療、週1回訪問歯科診療を受診できるよう支援し、結果を家族等に電話や面会時に報告するとともに、個人ファイルや職員連絡帳、病院受診処方記録ノートに記録して全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回医師の往診時に利用者の身体の状態を医師や看護師に相談し利用者の健康管理を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人が安心して頻りに病院を訪問している。又病院関係者との連携をとり病状の経過を記録し家族に報告している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護に関する説明を行い利用者、家族に同意を得ている。カンファレンス時に看取り介護についての研修を行った。見とりに関しては優先課題としてとりくんでいる。	契約時に利用者や家族等に重度化や終末期に向けた事業所の対応指針を説明し、同意を得ている。 月1回のカンファレンス時に看取り介護の教材用のDVDを利用し、看取り介護の研修を一部の職員に実施しているが、全職員が受講するまでには至っていない。	全職員に看取り介護の研修を実施することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ会議の時に全員でマニュアルにそって急変時の対応の確認をしている。個別の発作（精神的感情の不安定、痙攣等）に対して対応の仕方を研修している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者をおき年2回訓練を実施している。玄関ソファの下に防火頭巾を備品としておいている。防火訓練時近隣の方々にも参加してもらっている。又緊急連絡網の作成も行いスタッフ会議で常に確認を行っている。車イスでの避難経路の確認と実践を行っている。	年1回消防署立会いの避難訓練を実施しているほか、事業所独自に夜間を想定した避難訓練を実施している。 避難訓練の実施状況や反省点、今後の課題などを話し合って記録に残している。 避難訓練に地域住民5名の参加を得ているほか、AEDを使用した救命講習会も実施している。 災害に備えて米や菓子、飲料水、LEDランプ、毛布、リハビリパンツ、防災頭巾などを備蓄している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の呼び方や言葉使いに注意して接している。一人一人が自由にやりたい事をやれるような環境作りをしている。	管理者や職員は利用者の呼び方や言葉遣いなどに気を配り、言われたくないことを言わないよう意識するなど、利用者一人ひとりの尊厳を大切に支援している。 職員はトイレ誘導時には利用者に小声で声をかけたり、トイレのドアを閉めるなど、プライバシーに配慮した対応に努めている。 個人情報に関する書類は事務所にある施錠ができる書棚に保管し、情報漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が話しやすいような雰囲気を作り自分の思いを自ら言えるようにしている。日頃の行動から本人の意思を組み取れる様援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を大切に畑で野菜作りをしたり、散歩したりと変化のある生活が出来る様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容や買い物を実施。イベントや買い物、通院時は、特に本人の好むおしゃれが出来るように取りくんでいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人に出来る部分で参加してもらっている。メニューの記入、菜園からの収穫、野菜の皮むき等、個々の能力に応じて食事作りに参加している。汁かき、刻み食に対しては色彩や配置等考え職員の声掛けを行っている。	宅配業者によるカロリー計算された献立の食材が届き、職員が調理をしている。利用者はできる範囲で野菜の皮むきなどの下準備やテーブル拭き、後片付けをしている。利用者の咀嚼能力に応じてトロミを付けたり、ペースト状にしたりしているほか、刻み食などを提供し、利用者一人ひとりに配慮した食事を提供している。食事を楽しめるよう自家菜園で収穫したトマトやきゅうり、オクラ、南瓜、ニラ、スイカ、しそなどの野菜や果物を食材に活用しているほか、行事食や出前などを取り入れたり、誕生会にはケーキで祝ったりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算をし栄養のバランスがとれるような献立を作成している。水分量は一日の摂取量を記録し不足しがちな人には、嗜好等考えてバラエティーに富んだメニューを個々に提供している。嚥下障害のある方にはトロミを付けムセ込がないよう介助をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週一回訪問する歯科衛生士の指導を受けながら毎食後の口腔ケアを本人の能力に応じたやり方で支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中は時間をみて、ほとんどの人をトイレに誘導している。夜間は個々の残存機能に応じて自室でポータブルトイレ等を利用している。夜間回数の多い人もなるべくトイレで対応するようにしている。	職員は排泄チェック表から利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを見計らってトイレ誘導を行い、トイレで排泄ができるよう支援しているほか、パッドやリハビリパンツを使用して排泄の自立に向けた支援をしている。失敗した場合は周りに気付かれないようさりげなくトイレや風呂場に誘導し、利用者の自尊心を傷つけないよう配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の生活パターンをよく理解し一日の運動量、水分量、排泄の確認をし便秘の予防をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	2日に1回の入浴を実践している。利用者の希望を取り入れ嫌がる利用者には無理強いせずいろいろな工夫をして入浴が出来るようにしている。入浴にも季節感を取り入れ楽しんでもらっている。(入浴剤を利用して)	風呂は毎日沸かし、2日に1回を目安に入浴日を設けているが、利用者の状態や希望にそって入浴日や時間帯を変えたり、シャワー浴や足浴など個々に応じた支援をしている。 入浴を嫌がる利用者には無理強いせず、職員や時間帯を変えたり、「一番風呂ですよ」や「広いお風呂で綺麗になりましょう」、「温泉に入りましょう」など、利用者の興味のある話をしながらさりげなく風呂場へ誘導したりするなど、無理なく入浴ができるよう工夫をしている。 浴槽に柚子を入れて季節を感じてもらったり、入浴剤で温泉気分を味わってもらうなど、入浴が楽しみになるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染みのある寝具を使い利用者がゆっくり安眠出来る環境作りを心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明を個々にファイル用法や用量の確認がいつでもできるようにしている。薬の変更があった場合は申し送りノート等を活用し職員全員の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人の生活歴等考えてカラオケや野菜作り等個々の楽しみを大切にしている。嗜好品等も好みに合わせて提供できるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物支援は毎週取り組んでいる。季節に応じて桜見学や近くへのドライブ等行っている。ブルーベリー等をもいで食べたりして外気浴も楽しんでいる。庭にテーブルを置いてパラソル等設置し外気浴をしながらお茶を楽しむよう準備中。	天気の良い日には利用者と職員で事業所の庭を散歩したり、自家菜園で草取りや水やりをしたりして、利用者が気軽に外気にふれられるよう支援している。 ドライブを兼ねながら近隣の公園まで行き、桜やチューリップ、コスモスなどを鑑賞して四季の移り変わりを肌で感じたり、気分転換ができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力に応じて自己管理や支払が出来る様支援している。管理が難しい人は出納帳を利用し職員が管理し時々説明をしている。ご家族には2カ月に1回確認をしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも自由に電話が出来るようにしている。家族からの手紙は本人に大切に保管してもらいいつでも見れるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには季節の花を飾りメダカや亀等を飼育し共通の話題作りが出来る様に環境作りに取り組んでいる。行事ごとの利用者の写真を廊下に飾り家庭的な雰囲気を出し浴室、トイレも明るい清潔な感じを維持している。	2つのユニットの中央にある玄関を入ると、左右にそれぞれのユニットの広々とした居間兼食堂があり、ウッドデッキに出られる大きな窓から自然光や外気を取り入れたり、換気や温度調節を行ったりして快適に過ごせるよう配慮している。 利用者が居心地よく過ごせるよう、居間兼食堂にある窓の脇にソファとテレビを配置しているほか、疲れたらすぐに休憩ができるように事務所の入り口脇や廊下の隅、風呂場の脱衣所などにも椅子を配置している。 幅の広い廊下に手摺を設置したり、廊下には物を置かないようにしたりして、利用者の転倒を予防し、安全な暮らしができるよう努めるとともに、雨の日には広い廊下を歩行訓練のスペースとして活用し、下肢筋力の維持につなげている。 廊下の壁には、職員が行事の時に利用者の様子を撮影した楽しい思い出の写真を掲示している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の固定された席の他にテレビの前や玄関にソファやテーブルをおき自由に利用出来るようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベット、テレビ、ダンス、鏡台等馴染みの物が置かれている。その他本人の好きなぬいぐるみや椅子テーブル、家族の写真、アルバム等をおいている。又職員の手作りの作品も各部屋に飾られ心地よい雰囲気を作っている。	居室にはエアコンやベッド、カーテン、クローゼットが備え付けられている。 利用者は家族等と相談しながら使い慣れた整理箆箆や椅子、テレビ、家族の写真など思い思いの物品を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりを設置し安全に移動できるようにしている。廊下は物を置かないにし歩行訓練が出来るようにしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 フレンズ牛久遠山

作成日 平成26年1月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	全職員に看取り介護研修を実施する事を期待する。	外部の研修にも積極的に参加し、新しい職員にも研修を行っていく。	外部研修に参加し全職員に周知する。また施設の方針について話し合いをする。カンファレンスに看取りを取り入れる。	3ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。